



わかあゆ 2021

～吾こそが知性のペンを磨きゆく～

佐世保市立柚木中学校 学校だより
《令和3年12月16号》
文責：校長 埋ノ江 章
令和3年12月22日(水)
今日は何の日：冬至(→夏至)
労働組合法制定記念日(1945) 等

柚木中精神：校門の第一歩は学習の第一歩
学校教育目標：心豊かで自ら学ぶたくましい生徒の育成
めざす生徒像：思いやりのある生徒 意欲的に取り組む生徒 わばり強くやり抜く生徒
三無一礼：無言清掃 無言配膳 無言整列 校門での一礼
一校一徳運動スローガン：Let's Greet! ～笑顔の花を咲かせよう～

生徒会スローガン：Draw tomorrow! ～明日を描こう!～

～ 学校・家庭・地域共通の子育て目標 ～
いつでも・どこでも・誰にでも、あいさつができる柚木っ子の育成

今日は暦の上で「冬至」を迎えました ～3年生は理科で学習～

ちょうど3年生は理科の授業で「天体」について学習していますが、「冬至」については学習済みですね。3年生にとっては復習になりますが、「天体」という視点から「冬至」を説明すると次のように言えます。

冬至は1年間で太陽の位置が最も低くなる日であり、1年間で日中が最も短くなり、冬至を境に太陽が生まれ変わり、陽気が増え始めるとされている。秋分から春分までの間、北半球では太陽は真東からやや南寄りの方角から上り、真西からやや南寄りの方角に沈む。

冬至の日にはこの日の出(日出)・日の入り(日没)の方角が最も南寄りになる。また南回帰線上の観測者から見ると、冬至の日の太陽は正午に天頂を通過する。

冬至の日には北緯66.6度以北の北極圏全域で極夜となり、南緯66.6度以南の南極圏全域で白夜となる。1年で日の出の時刻が最も遅い日・日の入りの時刻が最も早い日と、冬至の日とは一致しない。

日本では、日の出が最も遅い日は冬至の約半月後(年明け)の1月上旬頃であり、日の入りが最も早い日は冬至の約半月前の12月上旬頃である。

暦の上で、「冬至」は二十四節気のひとつですが、古代においてはこの「冬至」を1年の始まりとしていたそうです。また、別名を「一陽来復(いちようらいふく)の日」とも言うそうです。

中国や日本では、冬至は太陽の力が一番弱まった日であり、この日を境に再び力が甦ってくるという前向きな意味合いを含んだ言葉なのです。冬至を境に運も上昇するとされているので、かぼちゃを食べて栄養を付け、身体を温めるゆず湯に入り無病息災を願いながら寒い冬を乗りきる知恵とされています。

そこで昔から冬至の日にはかぼちゃや小豆粥を食べたり、ゆず湯に入ったりする風習があります。

ただし、二十四節気は日付固定ではなく、日付は変動するので、2021年の冬至は12月22日となります。

12月22日から次の二十四節気の第23節、小寒の2022年1月5日までの15日間ぐらいを指します。

かぼちゃは南アメリカ大陸原産で、生育適温は25～30℃前後の熱帯性の植物のため、日本におけるかぼちゃの旬は夏です。しかし、その夏野菜のかぼちゃが、どうして冬の季節である「冬至」に食べられるようになったのでしょうか。それは日本人が季節感をとても大切にしてきたことに関わります。春は桜、夏には花火、秋は紅葉、冬はこたつにミカン。冬至に夏の旬のかぼちゃを食べる風習とはいったいどのようなことから、冬至にかぼちゃが食べられるようになったのでしょうか?その秘密は、かぼちゃが長期保存ができる野菜だということです。

今でこそハウス栽培や野菜の冷蔵・冷凍技術が進んでいますが、昔は現代と違って野菜を1年中食べることは難しい時代でした。そのため、ビタミンなどの多くの栄養を含むかぼちゃを、野菜の不足する冬の時期に食べることで、厳しい冬を元気に乗り切ろうという江戸時代の人たちの「冬至の日」への想いが込められています。

また、冬の七草と呼ばれるのは「なんきん(かぼちゃ) れんこん にんじん ぎんなん きんかん かんてん うどん(うどん)」で、この冬の七草は、「ん」が2つある食べ物なので運をたくさん取り込む「運盛りの野菜」といわれ、冬至を境に運を盛り返す意味でかぼちゃを食べられるようになった由来のひとつだそうです。

大きなミスをお犯してしまい、申し訳ありませんでした!!

先日、20日付けの学校だよりで「德育標語コンクール入選作品」を紹介しましたが、1年生の〇〇〇くんの作品を見落とし、申し訳ありませんでした。「広げよう 差別ではなく 思いやり」が入選していました。

*今日の德育標語：広げよう 差別ではなく 思いやり